建設ディレクター協会
建設ディレクター育成コース

17人が入校、正社員への一歩

一般社団法人建設ディレクター協会（新井恭子代表理事）は26日、厚生労働省就職氷河期世代の方向け短期資格等習得コース事業の「建設ディレクター育成コース」入校式を京都市左京区の国立京都国際会館で開催した。

冒頭挨拶で新井代表理事は「17名の受講者の皆様、建設業界に目を向けて一歩を踏み出してくださいまして、ありがとうございます」と呼びかけ。続いて「今日という開校の日を迎えられたのは、ご列席の皆様、そして全国で頑張る建設ディレクターのおかげです」と謝辞を述べた。

新井代表理事（建設ディレクター協会）

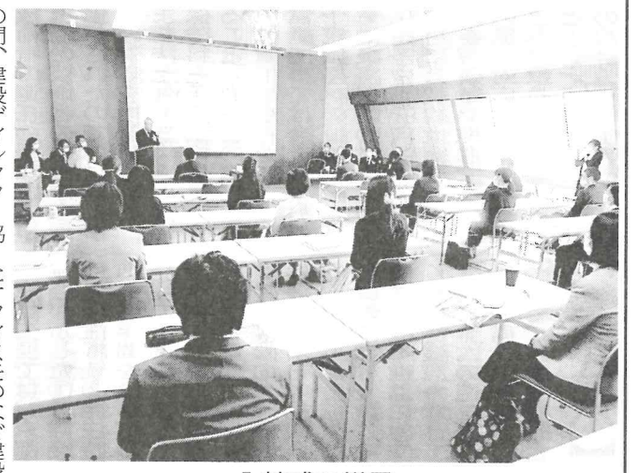
奥地理事（建設業振興基金）

鈴木部長（京都労働局）

岡野会長（全国建産連）

新井代表理事は「建設業は全国で47万社あるといわれ、約500万人が働く大きな産業です。日本経済はもちろん、地域経済でも重要な役割を果たしています。特に近年多発している自然災害の復旧に加え、老朽化が進むトンネル、橋、道路のインフラメンテナンスを担い、地域の守り手として、これからますます必要とされる存在になっていくことと思います」「急激に変化する社会情勢の中で、建設業が果たす役割は大きい。私どもは建設業のIT支援を通して、京都の地元の建設業の皆様をはじめ、全国のバックオフィスで働く方々、そして若手の社員の方々など、1万人以上の方々のお声をお聴きして生まれたのが、バックオフィスから現場を支援する建設ディレクターです」「建設業は私たちの生活を支える重要な基幹産業であり、魅力的でやりがいのある仕事です。基幹産業として継続的、持続的に発展していくために、建設ディレクターという職域が全国の建設事業者から共通スキルとして認識され、多様な人材が活躍できる場を増やしていくことに貢献していきたい」「バックオフィスから現場を支援する、そして、それぞれの特性や経験を生かして可能性を開くのが建設ディレクターの存在です。その建設ディレクターたちをサポートするのが私たちの役目です」と抱負を述べた。

事業受託者挨拶として、一般財団法人建設業振興基金の奥地正敏理事が挨拶に立ち、「本日の入校、まことにおめでとうございます。この建設ディレクター育成コースには定員以上の応募があり、厳正な審査を経て、皆様方が本日入校されました」「これから約1ヵ月半の間、建設ディレクター協会のご協力のもと、訓練を実施していく」「この訓練コースは、厚生労働省実施の就職氷河期世代の方向けの短期資格等習得コース事業の一つ。正社員として働きたいという希望を持っている方を対象に、就職に有利になるスキルや資格を身につけていただき、訓練と就職支援が一体となったもの」「皆様の最終の目標は、スキルや資格を身につけた上で希望の就職先を建設業界で探していただき、そこで活躍すること」「建設ディレクターは、最前線の建設現場をバックオフィスから支援するという新たな職域であり、建設業界が働き方改革を推進していく上で欠かせない」と期待の言葉を寄せた。


入校式の様子

来賓を代表して、京都労働局職業安定部の鈴木宏部長が挨拶し、「皆様方が習得される知識や技能は長い職業生活の中で生かすことができる大きな財産になる。IT技術やコミュニケーションスキルを生かし、現場とオフィスをつなぐ建設ディレクターとして建設業界の新たな存在となっていただくことに期待しています」と述べた。

国土交通省近畿地方整備局、京都府、京都市、京都商工会議所などからの来賓紹介の後、17人の受講生一人ひとりを紹介した。

記念撮影

一般社団法人全国建設産業団体連合会の岡野益巳会長は、新井代表理事が代表取締役を務める京都サンダー㈱の研修セミナーに触れた後「建設ディレクター育成コースで基礎的なことをしっかり学び、将来ステップアップしてほしい。建設業界にとって貴重な存在。建設産業は年齢を重ねても仕事ができる」「働き方改革で残業も少なくなってきている。建設業は魅力ある産業になりつつある」「建設産業の最大の目的は国民の財産を守り、社会資本を整備して、安心・安全を守ること」などと述べ、受講者を激励した。

建設ディレクター育成コースは、新型コロナウイルス感染症対策でオンラインを中心に講座を開く。資格取得は建設ディレクター初級、建設業経理事務士4級（3級にステップアップも可能）。

入札速報は「KJCねっと」で（1週間無料体験実施中）